郵便報知新聞

第六百壹号

武州秩父郡大宮郷関根菊次郎が妹お花が今年十六なるが深く云うかしたる男ありとも知らぬ洗井藤吉と云あり種々ふ云ひよりられども従いがれい猶更焦る一月廿日の夜忍び入威しつ透しつ口説れど横ゴ頭りと振る計宝の山へ入ぶり今更空しくくうられぬと其家の側ふ寒さ残さふ忍び居るとい知らぬ者のお花はあぐと二人言お気の毒ぶ外りあると云つ戸口と出ゆくさま扨ては始と心づく跡を慕ふと付ぬくふ幸ひお花が坂道を下るとも惜まぎれる跡より大石を搏げ落ちるお花ゴ足の間ゴ滾行て倒るゝ苦見ゴ大吏る所を怪我せしと嗚呼悪め石い恐いべきあらんや